

くじゅう地区管理運営協議会

令和6年度 活動報告



阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンター

目次

I. 長者原ビジターセンター等運営管理業務	
1. 長者原ビジターセンター利用状況	1
(1) 入館者数	2
(2) ハイビジョン映像上映回数	3
2. 利用案内と展示・自然ふれあい事業	3
(1) 利用案内・電話対応及び国際化	3
(2) 館内展示および自然ふれあい事業	3
① 常設展示	7
② 企画展示	9
③ 自然ふれあい・解説事業	11
④ 館内維持管理業務	12
3. 来館者アンケート結果	
II. 教育・普及啓発活動	
1. 普及啓発活動	15
2. 環境教育活動	22
III. 自然環境保全・調査活動	
1. 自然環境保全活動	24
2. 調査活動	26
IV. 登山道等管理活動	
1. 登山道保全活動	27
2. 長者原周辺の美化清掃活動	30
V. その他	
1. くじゅうファンクラブ賛助会員・寄付制度	31
2. 職員研修実績	32
3. 新聞掲載記事	33
4. 地域の概要	34
5. 運営体制	35

I. 長者原ビジターセンター等運営管理業務

1. 長者原ビジターセンター利用状況

(1) 入館者数

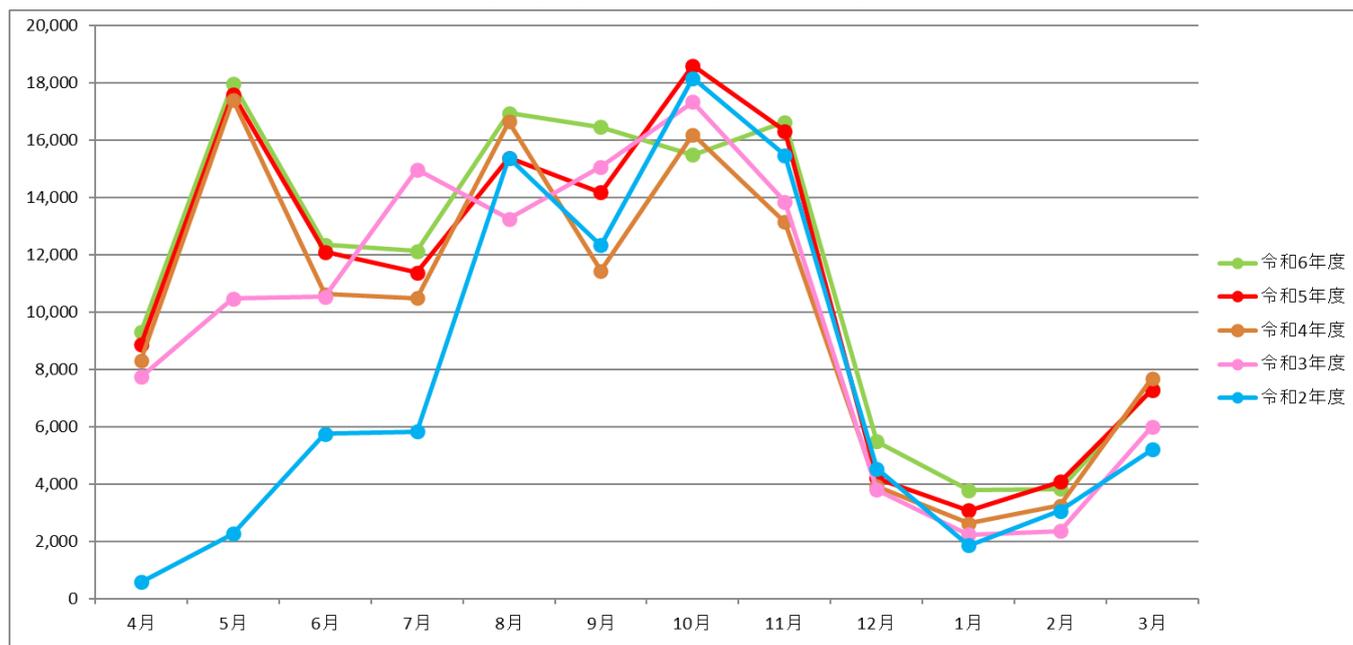
- ・令和6年度の入館者数は137,638人で、過去最高人数を記録した（前年度比：約3%増）。
- ・入館者数は、昨年と同様の推移となった。6月に過去最高の入館者数、9月も過去3番目の入館者数を記録したが、10月は週末ごとに雨が多く、過去5年で最低の入館者数となった。特に顕著であったのが海外からのインバウンド客の増加で、いずれの月もインバウンド利用者が昨年の2倍程度となり、全体の入館者の5%~10%程度を占めるようになった。



入館者数一覧表（令和2年度～令和6年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
令和6年度	9,301	17,972	12,339	12,127	16,939	16,460	15,479	16,618	5,483	3,779	3,824	7,317	137,638
令和5年度	8,857	17,596	12,087	11,372	15,383	14,165	18,593	16,314	4,209	3,071	4,076	7,273	132,996
令和4年度	8,305	17,404	10,625	10,484	16,646	11,441	16,185	13,148	3,915	2,621	3,244	7,689	121,707
令和3年度	7,730	10,474	10,532	14,969	13,256	15,065	17,333	13,841	3,797	2,227	2,354	6,006	117,584
令和2年度	578	2,269	5,750	5,830	15,381	12,331	18,157	15,475	4,537	1,853	3,060	5,206	90,427

入館者数推移（令和2年度～令和6年度）



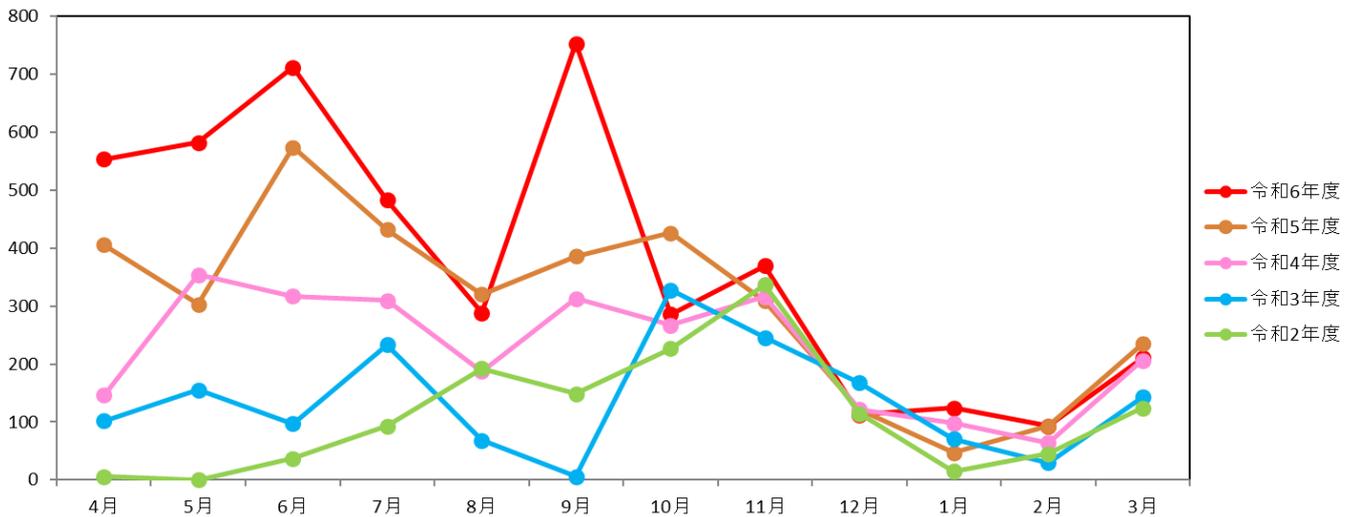
(2) ハイビジョン映像上映回数

- ・令和6年度のハイビジョン映像上映回数は819回、延べ人数は4,568人で、人数は前年度に比べ25%増となった。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として上映回数や入場者数を制限していた時期と比べ、感染症流行前にほぼ近い人数まで回復してきている。また、インバウンド客の増加に伴い、外国語上映回数も全体に占める割合が大きい（英語：82人 中国語：37人 韓国語：333人）。

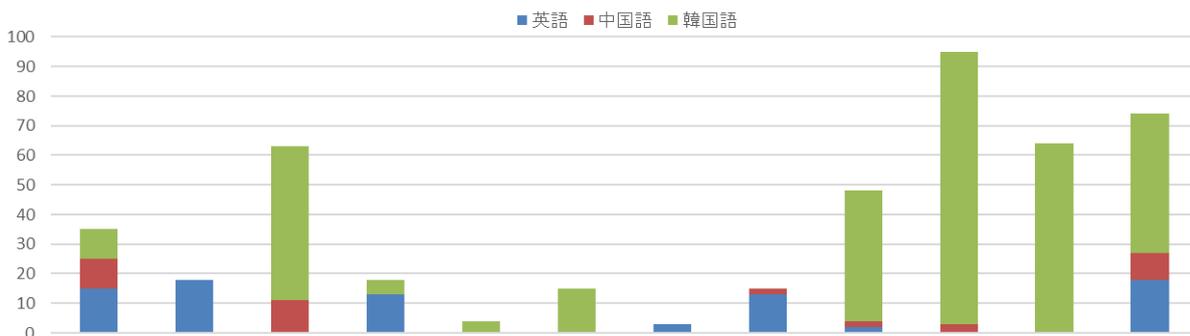
ハイビジョン映像上映人数一覧表（令和2年度～令和6年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
令和6年度	554	582	712	483	288	753	286	370	113	124	93	210	4,568
令和5年度	406	303	574	432	320	386	426	309	121	47	93	235	3,652
令和4年度	146	354	317	310	187	313	267	316	122	98	64	206	2,700
令和3年度	102	155	97	233	68	6	328	246	168	71	30	143	1,647
令和2年度	6	0	37	93	192	149	227	337	114	15	45	124	1,339

ハイビジョン映像上映人数推移（令和2年度～令和6年度）



外国語上映人数内訳（令和6年度）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
英語	15	18	0	13	0	0	3	13	2	0	0	18	82
中国語	10	0	11	0	0	0	0	2	2	3	0	9	37
韓国語	10	0	52	5	4	15	0	0	44	92	64	47	333
合計	35	18	63	18	4	15	3	15	48	95	64	74	452

2. 利用案内と展示・自然ふれあい事業

(1) 利用案内・電話対応および国際化

- ・ビジターセンター受付カウンターおよび館内にて、国立公園の利用案内や自然情報等の情報提供をおこなった。頻繁に尋ねられるミヤマキリシマの開花や紅葉の時期については、一覧にしたボードを作成し、来館者がわかりやすいよう工夫した。
- ・観光案内所の職員と協力して、周辺の観光施設や宿泊施設についても案内した。
- ・電話による問い合わせに対しても、受付カウンターでの対応と同様に対応した。5月～6月（主にミヤマキリシマ情報）、10月（主に紅葉情報）には特に電話による問い合わせが多かった。冬季は積雪や道路の状況についての問い合わせが多かった。定型的な問い合わせについて、ホームページに掲載するなど効率的な対応を検討するため、試験的に電話問い合わせ内容を記録した。
- ・英語での利用案内・解説ができる自然解説員を配置して利用案内の国際化に努めるとともに、英語で話している来館者にも積極的に英語で対応した。
- ・受付カウンターに英語での対応ができることのほか、筆談でも案内できることを表示した。また、音声翻訳機「ポケトーク」を配備し、英語以外の言語にも対応した。
- ・海外からのEメールによる問い合わせにも対応した。
- ・クイズラリー・スタンプラリーなどの館内アクティビティについては英語版も提供した。



(2) 館内展示および自然ふれあい事業

① 常設展示

- ・下記の頻度で手作り展示を更新した。手作り展示や館内案内は原則として英語併記をおこない、展示・案内の国際化に努めた。

展示内容		展示場所	更新頻度
お知らせコーナー	写真①	2階入口付近	随時
くじゅうの自然写真館	写真②	2階受付付近	随時
登山のルールとマナー	写真③	2階受付付近	年4回
観光情報コーナー	写真④	2階受付付近	随時
展望コーナー周辺	写真⑤	2階展望室付近	随時
くじゅう連山自然情報	写真⑥	2階受付付近	随時
ハンズオンコーナー	写真⑦	1階壁面付近	年7回
くじゅう植物図録	写真⑧	1階野焼きコーナー横	随時
タデ原フィールドガイド	写真⑨	1階入口付近	随時
キッズコーナー	写真⑩	1階階段横	年1回
くじゅうの自然を支える活動	写真⑪	階段ボード	年3回
チームタデ原活動紹介	写真⑫	階段ボード	年6回
登山道等整備活動紹介	写真⑬	階段ボード	年2回

デジタルセンター2階

・2階はメインの入口となっており、来館者の出入りも多いため、自然に関する情報および登山道情報を提供したり、展望を利用した休憩スペースを設置したりしている。また、観光利用や登山初心者向けに、登山の服装等のマナーや、周辺地域の観光情報等もわかりやすく紹介している。



① お知らせコーナー
センターや関連機関からのお知らせ等を掲示した。



② くじゅうの自然写真館
季節ごとの旬な風景や動植物の写真を展示した。



③ 登山のルールとマナー
登山の初心者向けに、季節ごとの登山の服装や注意点などの説明をした。



④ 観光情報コーナー
国立公園周辺の見どころ等を、カケスマップ (周辺観光マップ) や写真などを使って紹介した。



⑤ 展望コーナー
雄大な景色を眺められるコーナーで、望遠鏡、書籍、新聞を置いて、くつろげるようにした。



⑥ くじゅう連山自然情報
マンサクやミヤマキリシマの開花情報、紅葉情報など問い合わせの多いものを掲示した。

ビジターセンター1階

- ・1階は滞在時間が十分にある来館者が多く、タデ原湿原木道やくじゅう連山登山道につながる出入口となっているため、タデ原やくじゅう連山についての詳しい自然解説内容を展示した。



⑦ ハンズオンコーナー

工作をしたり、実物に触れたり匂いを嗅いだりすることができるハンズオンコーナー。ミヤマキリシマやヒゴタイの花を折り紙で作って掲示物に貼る展示では、家族連れを中心に多くの来館者が楽しんでいました。



⑧ くじゅうの植物図録

ボランティア団体「九重の自然を守る会」が作成した植物図録を季節ごとに入れ替えて展示した。



⑨ タデ原フィールドガイド

タデ原で今見られる動植物などを、楽しみ方の幅を広げる職員手づくりの解説付きで紹介した。



⑩ キッズコーナー

自然関係の絵本やパズルなどを置き、子どもや親子連れがゆっくり遊べるコーナーにした。

階段

・2階の入り口からの来館者がタデ原湿原や館内トイレに向かう動線上であり、多くの来館者が自然と展示を目にする場所であることから、くじゅうで行われている自然保護活動等を普及啓発する内容を展示した。



⑪ くじゅうの自然を支える活動

「飯田高原野焼き実行委員会」による野焼き、「パークボランティアの会」の活動、「九重の自然を守る会」の植物モニタリング調査を紹介した。



⑫ チームタデ原活動紹介

九重町の小中学生が参加する「チームタデ原」の活動を紹介した。



⑬ 登山道整備活動紹介

玖珠美山高校および久住高原農業高校が継続している登山道整備・環境保全活動を、協力者とともに紹介した。

クイズラリー・スタンプラリー

- ・来館者が目的をもって展示を楽しめるように企画したアクティビティ。特に、子どもたちが喜んで参加していた。参加者数はクイズラリーが 473 人（前年度比 18%減）、スタンプラリーが 1,082 人（前年度比 7%増）であった。
- ・学校等団体での利用ではスタンプラリーの利用が多く、参加者数が昨年度に比べ大幅に増えている。
- ・シートは日本語と英語の 2 種類を用意した。
- ・参加者に受付でオリジナルシールをプレゼントし、好評であった。



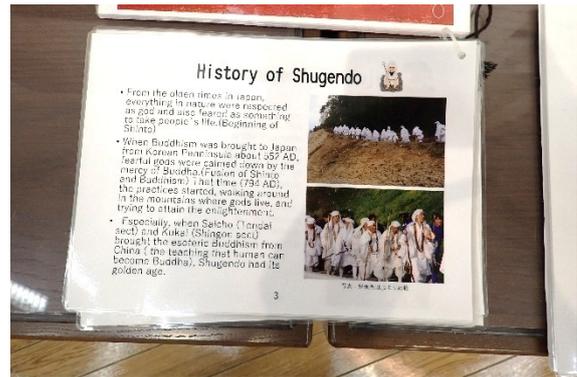
クイズラリー・スタンプラリーシート配布の様子



クイズラリー・スタンプラリーの参加者の様子

展示の国際化対応

- ・企画展示を含む手づくり展示については、英語での解説を併記し、国際化への対応に努めた。



② 企画展示

- ・2階フロアなどで広い場所をとって比較的長期間実施する展示である。今年度は季節ごとに次の4回の企画展示を開催した。

展示内容	展示場所	展示期間
コケモモ “もうひとつの” 天然記念物	2階	令和6年4月18日～6月20日
くじゅうの自然～火山と草原～	2階	令和6年7月10日～9月15日
阿蘇くじゅう国立公園 生誕90周年記念展示	2階	令和6年9月29日～12月5日
2024を振り返る写真展・ビジターセンター職員が選ぶベストショット	2階	令和6年12月17日～7年3月10日

コケモモ “もうひとつの” 天然記念物

実施期間：令和6年4月～令和6年6月



くじゅう連山の国指定天然記念物として、ミヤマキリシマとともに指定されているコケモモについて、多くの写真や参考文献を用いながら詳しい紹介を行った。くじゅう連山ではどのような場所にコケモモが分布しているのか、さらに世界のどのような場所に分布しているかを地図や写真を用いて解説した。併せて、海外でのコケモモの祭りや食文化等のほか、実際に商品として販売されているコケモモジャムの展示も行った。

くじゅうの自然～火山と草原～

実施期間：令和6年7月～令和6年9月



阿蘇くじゅう国立公園くじゅう地域の自然を代表する火山と草原について取り上げた。地質図を用いてくじゅう連山の形成年代の解説や、図や写真を多く用いながら草原と湿原の関係や形成について紹介した。火山性・草原性の動植物をピックアップしてそれぞれの種の解説も行った。また、火山と草原の大判写真の掲示や、解説文に対しての図を多くするなど、分かりやすい展示となった。

阿蘇くじゅう国立公園 生誕 90 周年記念展示

実施期間：令和6年9月～令和6年12月



今年で生誕 90 周年を迎える阿蘇くじゅう国立公園の歴史について振り返る企画展を行った。阿蘇くじゅう国立公園の歴史を年表に書き起こし、年代ごとに関連する新聞記事や出来事について写真と解説を付け紹介した。展示の一角に国立公園 100 周年へ向けたメッセージを書く欄も設け、来館者参加型の展示となっている。

2024 を振り返る写真展 - ビジターセンター職員が選ぶベストショット -

実施期間：令和6年12月～令和7年3月



2024 年の 1 年間で撮ったくじゅう地区の写真の中から、職員が厳選したベストショットを展示した。各月 2 枚ずつ写真を選び、職員によるコメントと英語訳も載せて紹介した。来館者が気に入った写真にシールを貼って投票する参加型の企画展となっている。各月の選ばれたくじゅうの美しい風景や動植物の写真を通して、美しい四季の移り変わりや、くじゅう地域の魅力を伝えることができた。

③ 自然ふれあい・解説事業

タデ原の自然観察会

- ・「九重の自然を守る会」の会員がボランティアガイドをおこなう。参加費は無料。
- ・令和6年度の自然観察会開催回数は54回、参加者数は延べ629人であった。春～秋にかけて参加者が集中し、特に学校や一般団体での利用が増える傾向にある。



自然観察会参加者数（令和2年度～令和6年度） ※斜線の月は中止

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
令和6年度	25	98	29	32	36	251	111	20	7	2	14	4	629
令和5年度	12	130	162	74	44	39	145	25	1	2	5	1	640
令和4年度	10	61	14	33	33	19	79	31	0	2	3	7	292
令和3年度	29	46	16	34	22	44	41	38	137	4	0	12	423
令和2年度				13	48	32	74	52	2	0	3	4	228

夜のタデ原さんぽ

- ・閉館時間以降の夜間のイベントを企画し、「夜のタデ原さんぽ」として開催した。
 - 第1回「親子でタデ原さんぽ」 8月17日（土）19：30～21：00 大人10名 こども6名
 - 第2回「大人のタデ原さんぽ」 8月31日（土）19：30～21：00 大人13名
 - 第3回「夕ぐれタデ原さんぽ」 9月8日（日）18：00～19：00 大人2名
 - 第4回「暗やみタデ原さんぽ」 9月8日（日）19：30～20：30 大人9名 こども4名
 - 第5回「夕ぐれタデ原さんぽ」 9月21日（土）18：00～19：00 大人4名
 - 第6回「暗やみタデ原さんぽ」 9月21日（土）19：30～20：30 大人7名
 一般参加者合計55名、案内：くじゅうネイチャーガイドクラブ
- ・環境省から受託した「サステナブルツアー造成業務」のモデルツアーとして、今年度は3回目の開催となる。星空や月に加え、タデ原の植物や動物くじゅうの文化など幅広いトピックを解説し、五感で感じられるプログラムを実施した。参加者アンケートでは概ね高評価をいただくことができた。



国立公園レクチャー

- ・ビジターセンター職員が国立公園やタデ原湿原について解説をおこなう。参加人数等に応じて、15～30分程度のレクチャーを行った。
- ・団体の人数に合わせて、シアタールームや屋外でレクチャーを行った。
- ・国立公園レクチャーの受け入れ回数は17回(前年度比2回増)、利用者延べ506人(前年度比1%減)。



令和6年度 国立公園レクチャー一覧

開催日	団体名	参加者 (人)
4月 4日	呼子ウォーキング	16
5月 13日	日田市立大山中学校	20
6月 8日	九重青少年の家	30
6月 25日	由布市立石城小学校	13
6月 26日	台湾行政	8
6月 27日	日出町立川崎小学校	71
7月 24日	イオン九州	23
9月 24日	由布市立挾間小学校	120
10月 25日	ここのえ緑陽中学校	71
10月 27日	別府観光	20
11月 4日	西日本新聞旅行	12
11月 23日	株式会社伊藤園	48
11月 28日	九重町立飯田小学校	10
12月 3日	環境省修験道ツアー	2
2月 21日	九重町立飯田小学校	14
3月 4日	セブンイレブン記念財団	8
3月 5日	龍谷大学	20
合計 (のべ)	17 団体	506

視察研修対応

- ・ 行政機関をはじめとする関係者の視察等を随時受け入れ、職員が館内展示や阿蘇くじゅう国立公園、タデ原湿原の自然環境などについて解説をおこなった。
- ・ 令和6年度の受け入れ回数は2回、利用者数は延べ22名と、前年度（2回、12名）と受け入れ回数と同じ、利用者は10名増であった。



令和6年度視察研修受け入れ事業一覧

開催日時	団体名	参加者（人）
5月29日	九重町商工会	13
10月23日	ツーリズム商談会	9
合計	2 団体	22

④ 館内維持管理業務

- ・ ビジターセンター館内は、朝または夕方にゴミ拾い、床のモップがけ、館内トイレ清掃、展示のタッチパネルやエレベーターのボタンなどのアルコール消毒を毎日実施した。
- ・ 清掃業者による特別清掃（ワックスがけ等）を2月に実施した。



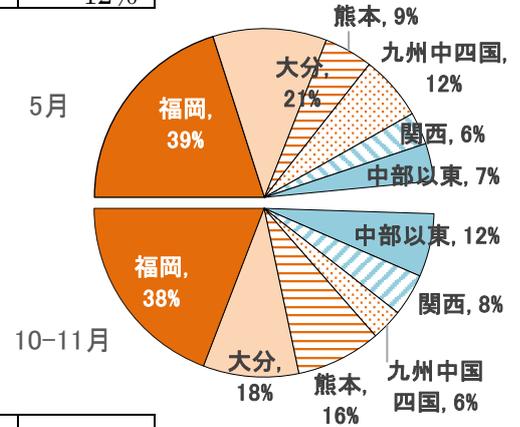
3. 来館者アンケート結果

来館者アンケートを令和6年4月27日～5月7日（回答数78）と10月27日～11月5日（回答数50）の2回実施し、期間入館者数14,000名の約0.9%にあたる128名から回答を得た。

(1) 回答者について【右図参照】

	福岡県	大分県	熊本県	九州中四国	関西	中部以東
5月	39%	21%	9%	18%	8%	15%
10-11月	38%	18%	16%	6%	8%	12%

	20歳未満	20歳～39歳	40歳～59歳	60歳以上
5月	28%	12%	40%	20%
10-11月	14%	8%	20%	58%



(2) 来館回数

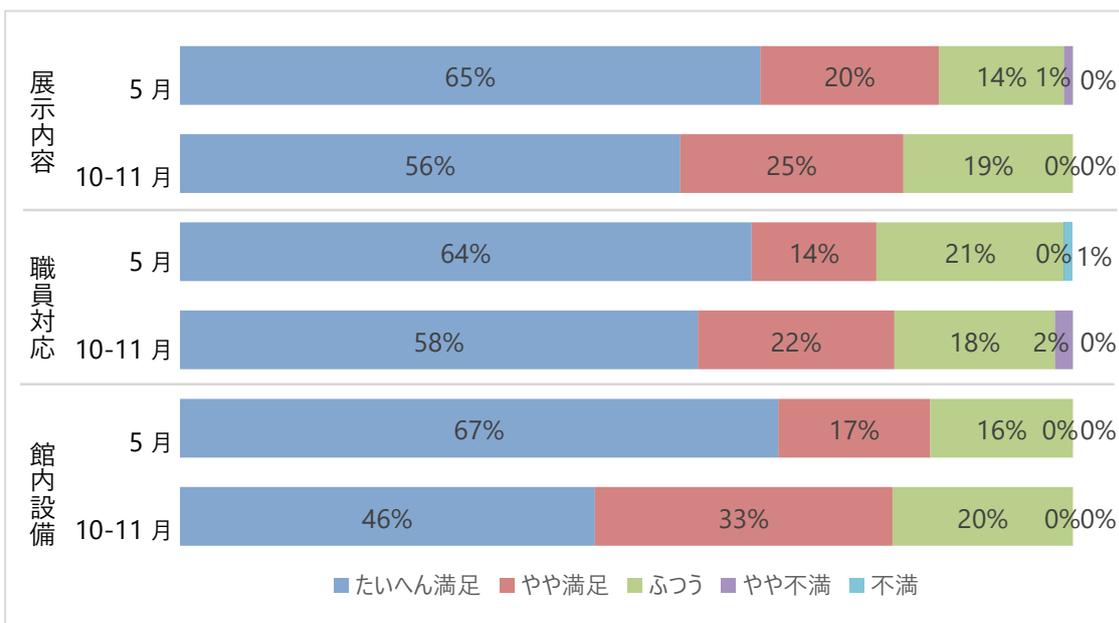
	はじめて	2～3回目	4～5回目	6回以上
5月	49%	18%	5%	28%
10-11月	30%	26%	8%	36%

(3) 長者原を訪れた目的【複数回答】

	タデ原の散策	登山	ビジターセンター	偶然通りがかった	ツアーの一部	その他
5月	61%	28%	12%	9%	0%	4%
10-11月	60%	22%	16%	16%	2%	2%

(4) 満足度について

		たいへん満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
展示内容	5月	65%	20%	14%	1%	0%
	10-11月	56%	25%	19%	0%	0%
職員の対応	5月	64%	14%	21%	0%	1%
	10-11月	58%	22%	18%	2%	0%
館内の設備	5月	67%	17%	16%	0%	0%
	10-11月	46%	33%	20%	0%	0%



(5) 回答者のコメント（抽象的なもの・重複した内容のものは省略、下線は要望・改善点等）

【館内展示・企画】

様々な展示物がありいつも楽しく見させてもらっています。/ 色んな展示物があって面白かったです。/ 教育的で自然への関心が湧く展示をこれからもお願いします。/ 展示が素晴らしい。/ 鳥の鳴き声みたくのがすごかった。/ クイズラリーやスタンプラリーのシールが良かったです。/ クイズラリーやスタンプラリーが知らないことを知る機会になりました。/ 顔はめパネルおもしろかったです。次回は自然観察会などにも参加してみたいです。/ 展示内容をより増やす。/ 鳴き声が聞ける/ パネルの写真が美しい/ 展示がわかりやすい/ 体験型で楽しめました/ ハイビジョン/ 写真が多い/ 花の写真集/ 四季ごとの花木の写真や説明/ 湿原と花の写真/ サテライトマップ (1F) / 中央の大きなパネル/ くじゅうの歴史と自然/ 1階壁掲示物の紅葉写真/ 国立公園 90 年史 (企画展) / 鳴き声/ 登山ルートを紹介/ 分かりやすかった/ 字が見やすかった/ 写真が多く大変見やすい/ きれいで見やすくわかりやすい/ 電子パネルが操作しづらい/ クイズが勉強しながら楽しんでよかったです/ クイズが楽しかった。また違うのもやりたい/ くじゅうの山々平治岳から見たくじゅう連山の大パノラマ迫力があって good! / 分かりやすく展示されていてとてもよかったです/ あまり広くない施設に工夫して色々な展示がしてあり良かったです。ミヤマキリシマの咲く時期に訪れたいと思います/ もう少し詳しい花マップがほしい。/ もっとたくさんの野草の品種が分かるようにしてほしいです。/ 花の写真にその花の葉の写真もあると花が咲いていなくても咲くであろうことが想像できるのではと思いました。/ 鳥などの鳴き声を知れてよかった。/ たくさんの写真や実際にコナラの樹皮に触るなどわかりやすく楽しかった。他に登山の持ち物など。

【情報提供・職員対応】

今見頃の植物がすぐに分かって助かります。/ きれいにしてくれてありがとうございます。/ 足が悪くなりビジターセンターの見方が変わりました。色々な勉強になりました。本当にありがたかったです。/ なぜ草原が広がっているのか、野焼きのためと分かったがではなぜ野焼きを 1000 年も続けてきたのか分からなかった。残念。/ くじゅうの自然を勉強する良い機会となりました。/ SNS でみています。飯田を離れてからも様子がわかってうれしいです。/ パンフレットが充実/ 植物の名前を教えてくれた/ 植物の情報を詳しく教えてくださいました/ キジのいるところなど教えてもらった/ 話しやすくてよかった/ お声掛け/ 言葉づかいが丁寧でした/ 挨拶が行っていた 笑顔/ 清潔感がある親切/ やさしい/ 笑顔が素敵/ 親切だから/ 親切でした/ とても親切/ 接し方/ 袋に商品を入れてくれたことなど親切なところ/ やさしい/ にっこり笑顔で対応してくれた/ 親切/ 詳しい説明、お答えして下さった/ 丁寧な説明/ 前回だが花の名前を探して下さった/ いつも親切に説明して頂きありがとうございます。

【設備・施設】

いつ来てもきれいな展示と湿原の管理にありがとうございます。/ とても歩きやすかったです。管理などありがとうございます。/ いつまでも存続できるようにお願いします。/ 100 円くらいお金を取っても良いのではないでしょうか? 寄付 BOX など設置するなど。/ エレベーター/ 吹き抜けの感じ こじんまりとしていて好き/ 物販コーナー/ コンパクトで見回りやすい。テラスも良いですね/ ジオアート/ トイレが使いやすかった/ とてもきれいでトイレもあることがありがたいです/ 美しい・静か/ 落ち着いていて美しい/ 風が抜ける/ 肌寒い/ くじゅうの音/ トイレもきれいだった/ 綺麗/ 車いすでちょっと歩きにくかった。 もう少し歩くスペースが広く欲しいと思った/ とてもきれいなセンターでした。ミニシアターもとても良かったです。

【タデ原・周辺施設】

すばらしい山歩きができるための活動をいつも感謝しています。/ 自然観察会楽しみにしています。/ いつかゆっくりと自然観察など外を歩きたいです。/ タデ原湿原楽しかったです。無料でガイドしていただきいろんなことを知ることができました。/ タデ原湿原 C コースを目指して行きましたが 1 か所しか看板がなくどこを曲がって良いかも分からず結局指山の先まで行ってしまいました。もう少し分かりやすい看板を立てて下さい。また、指山自然探求路も入口の表示しかなくどこを通っているか全く分からず心細い思いをしました。/ 散策路への通路や案内板があるといい。何分もよいが何メートルなども。

【その他・全般】

とても楽しかったです。/ とても充実していたので Thank you です。/ とてもためになった。/ もう 40 年以上九重に来た際に立ち寄らせてもらっています。/ いつも九重の大自然を守って下さってありがとうございます。/ 毎回楽しみに訪問しています。これからも訪れたいと思います。/ 楽しかったからまた来てみたい。/ 大変素晴らしい。/ 今度はもっと時間に余裕があるときに来たいと思います。/ 写真のクリアファイルの販売があるといいなと思いました。/ きれいでした。全体写真、航空写真/ 清潔なところ/ きれいでした/ きれいで温かみがある/ きれいです/ ぜひ継続を/ 楽しい!! コンパクトに知りたい内容がまとまっており毎回感心しています/ 初めてきました。またきたいです/ 現状で満足/ たくさんの学びがあり館内がキレイで快適に過ごせました。/ ススキ原にアクセスしやすいのも大変良いです。春にも来たいです/ いつも楽しく見させていただいています。ありがとうございます/ このままの落ち着いた雰囲気です/ 年に数回は必ず訪れます。いつ来ても心があられます。ありがとうございます/ また遊びに来たいです/ 九重の自然について大変興味があります。これからも楽しみにしております。

(6) 分析

・来館者について

例年同様、福岡県が最も多く全体の 4 割、大分県内からは約 2 割の来訪者となった。5 月は 40~59 歳が 40% と最多であり、初めて来館する人が約半数 (49%) を占め、10-11 月は 60 歳以上が過半数を占め、2 回以上来訪しているリピーター率が増加 (51%→70%) していたことから、季節によって客層が異なる傾向がみられた。とりわけ秋は 6 回以上の来館者が 36% と高いことから、固定ファンが存在していることが分かる。来訪目的はタデ原散策が約 6 割、登山目的が 2 割とほぼ例年と変わりなく、ビジターセンター目的の来訪者は約 1 割であった。

・展示内容について

特に 5 月は家族で来館される方が多く、クイズラリーやスタンプラリーが好評であった。一方、展示について「ふつう」と回答した方が増加傾向にあるため、季節に合わせある程度ターゲットを絞った展示改善が必要である。また、花や植物の写真・解説をさらに充実させてほしいという要望も複数あったため、新たにタデ原花マップを作製した。要望として登山道等周辺情報を検索できる電子パネルの操作性に関する改善要望があったため、管轄事業者に情報共有を行った。

・職員の対応や設備について

職員の対応については概ね高評価であったが、「不満」や「やや不満」の意見を数件頂いた。これらの記入者は全て設備についてご意見を頂いた方であるため、職員自体の対応ではなく設備の不備についての意見であったと推測される。設備については、ビジターセンター屋外の案内について看板が分かりにくい、案内板があるといいという意見をいただいたため、管轄事業者にも早急な対応を要求した。また、車いすのスペースが狭いというご意見を頂いたため、企画展などの掲示物設置の際、十分なスペースを空けるように配慮していく。

II. 教育・普及啓発活動

1. 普及啓発活動

(1) 遭難事故防止・登山マナー向上活動

牧ノ戸峠 登山ミニレクチャー

開催日時：令和6年6月1日（土）7:00～9:30

令和6年10月28日（土）雨天のため中止

場 所：牧ノ戸峠登山口

- ・公園利用者への適切な利用促進の一環で、くじゅう連山の主要登山口として利用されている牧ノ戸峠登山口において「登山ミニレクチャー」を実施し、登山者に対する公園利用マナーの普及啓発を行った。
- ・早朝、登山者に向けて登山届の Web 上での提出、服装点検、持ち物確認、登山道の歩き方（植生保護のため）、ゴミの持ち帰り、下山時刻の確認、山のトイレの利用方法など、向上すべきルールやマナーについてマイクを用いて呼びかけた。
- ・今年度もミヤマキリシマ開花時期と紅葉の最盛期に企画し、実施した。個人や団体・家族連れなど様々な登山客がくじゅうを訪れており、多くの方々に登山届の提出にご協力いただけた。
- ・従来の紙による登山届と併せ、大分県警の HP やアプリ「コンパス」を用いた Web 上での登山届事前提出について普及に努めた。
- ・例年は紅葉の時期にも実施するが、今年度は大雨のため中止とした。



(2) 広報活動

① くじゅうファンクラブ（くじゅう地区管理運営協議会）ホームページ

令和6年度「最新情報」更新回数：30回

- ・くじゅうファンクラブホームページ上で、くじゅうについての様々な情報提供をおこなった。
- ・10月より新たに「ミヤマキリシマ・紅葉情報」のバナーを設置し、自然情報や交通情報を一括で視認できるようにした。



② くじゅうファンクラブ フェイスブック

令和6年度投稿回数：83回

- ・くじゅう地区の最新の情報を幅広く提供するとともに、くじゅうに関心を持ってもらうことを目的に、フェイスブックに情報を掲載した。
- ・フォロワーの人数は、年度当初の7,276人から令和7年3月末には7,852人へ500人以上増加した。
- ・投稿がタイムラインやシェア・検索などを通じて受け手に表示された数を示す「リーチ数」は、平均すると1回の投稿あたり5,958回であり、合計でのべ49万人に情報が届けられたことになる。リーチ数の最大は11,974回（12月2日／降雪情報）で、次にくじゅう連山の夏山登山についての記事が上位となった。インバウンドの増加に伴う海外からの登山者が増えており、ミヤマキリシマや紅葉、冬山時期の投稿にはいいねやコメント、シェアの数が増加傾向にある。
- ・英語のコメントやハッシュタグを併記することで、外国人からの反応も継続的にみられている。



③ くじゅうファンクラブ インスタグラム

令和6年度投稿回数：54回

- ・くじゅう地区の美しい写真を通じて、国内外で広くくじゅう地区に関心を持ってもらうために、インスタグラムへの投稿を実施した。
- ・フォロワーの人数は、年度当初の3,895人から令和7年3月末には4,776人へ800人以上増加した。
- ・6月のミヤマキリシマの投稿では最大1,180件の「いいね！」の反応があった。紅葉情報に次いでミヤマキリシマ情報や雪の情報などに多くの反応があり、興味が寄せられているようだった。
- ・英語のハッシュタグをつけるだけでなく、投稿内容に英語を併記したことで、外国人利用者からもいいね！やコメント投稿などの反応があった。くじゅうについての認知度を国内外に高めるために役立ったと考えられる。



④ くじゅうファンクラブ X (旧ツイッター)

令和5年1月より毎朝投稿

- ・くじゅう地域の最新情報を毎日利用者に提供するために、天候や気温など現地の情報を写真・動画付きで投稿した。
- ・フォロワーの人数は、年度当初の887人から令和7年3月末には1,589人へ700人以上増加した。
- ・8月29日の投稿では、台風通過後の道路状況を投稿し、Xで表示された回数を示すインプレッション数が最大75,630となった。



⑤ 自然情報の提供

- ・植物の開花や紅葉の進み具合を調べ、「自然情報」として館内に掲示するとともに、正会員・賛助会員及び近隣の観光案内所や施設に随時配布した。
- ・令和6年度作成した自然情報は次の通りである。

タデ原自然情報：4～10月に月2回、計13回
 ミヤマキリシマ開花情報：5～6月に6回
 紅葉情報：10～11月に6回
 マンサク開花情報：2～3月に3回

- ・タデ原やくじゅう連山を訪れる人にとって役に立つ情報源となっている。今後もきめ細かな情報提供を心掛けながら継続していきたい。

タデ原湿原 自然情報 【2024/08/14】

くじゅうでもまだまだ暑い日が続きますが、湿原を吹き抜ける風は爽やかで、水際に入るとまた一段と涼しさを感じられます。朝やみに咲いていたハンカイソウも緩やかに、ススキのあいだからヒゴタイやコハネボウシなど、いろいろな花が顔をのぞかせていますよ。

1 8月14日 タデ原湿原
くじゅうブルーの青空が広がります。

1 8月14日 ヒゴタイ
朝から雨に花が咲いています。

1 8月14日 コウライモズク
今年は木道から近い場所で見られます。

1 8月14日 サワネキョウ
切れ込みの深い青紫色の花が随分よく咲きます。

1 8月14日 コハネボウシ
ススキの間からあちこちで顔を出しています。

1 8月14日 シロヒゲソウ
まさに名前を添った花の形をしています。

ミヤマキリシマ開花情報 Vol.4

調査日	場所	開花状態
6月1日	平治岳・北大船山 (1643m・1706m)	見ごろ
6月4日	三俣山 (1744m)	見ごろ
6月6日	久住山・星生山・扇ヶ鼻 (1786m・1762m・1698m)	7～8分咲き

標高1,600～1,700mの多くの山々でミヤマキリシマが見ごろを迎えています。今週末は色んな山で美しい景色が楽しめます。

今週末も多くの登山客で賑わいますが、平地駐車場では平治岳や北大船山を目指す登山者の車による路上駐車が増え、通行に支障があるほど危険な状況です。駐車台数の多い長者原からの山行を計画する方にもご注意ください。

- 平治岳や北大船山、三俣山では台風も少なく、ミヤマキリシマが十分に咲いています。
- 星生山や久住山方面では、前日より吹き返っていますが、花芽が少ないため徐々に咲き始めるかもしれません。それでも十分な景色が広がり、ルート上の空澄で見るミヤマキリシマも併せて楽しめます。
- 扇ヶ鼻は分枝からの盛り始め段階ではキレイなミヤマキリシマが広がりますよ。山頂付近はやや花芽が少ない印象です。今週一歩進んでみましょう。

タデ原湿原やくじゅう連山の最新情報については、SNSでも配信です。
<https://www.facebook.com/chojabaruvisitor>
https://www.instagram.com/chojabaru_visitor/

【注意事項】
この自然情報は、会員の皆様を対象に作成しお送りしているものです。HPやSNS等での転載はご遠慮いただきますようお願いいたします。

6/1 平治岳 6/1 北大船山

概要版

くじゅう連山紅葉情報 vol.4

場所	紅葉の様子
標高1,300～1,500m付近 (黒岳、牧ノ戸など)	見ごろ

標高1700m級の山々ではややくいづれを過ぎはじめる。黒岳や牧ノ戸などで見ごろを迎えています。牧ノ戸の駐車場は混雑が予想されます。長者原の臨時駐車場や牧ノ戸～長者原間の臨時バス・コミュニティバスをご利用ください。※詳細は長者原ビジターセンターHPをご覧ください。

タデ原湿原やくじゅう連山の最新情報については、SNSでも配信です。
<https://www.facebook.com/chojabaruvisitor>
https://www.instagram.com/chojabaru_visitor/

▶くじゅうファンクラブ賛助会員のご案内
くじゅうファンクラブに加入されている方には、より詳細なミヤマキリシマ開花情報をお届けしています。また、定期的にタデ原の自然情報や紅葉・マンサクなど、くじゅうの旬の情報をお届けしています。
<https://congrant.com/project/kujufanclub/9290>

⑥ 「くじゅうだより」の発行

- ・くじゅうの自然をより深く理解してもらうことを目的に、年4回発行した。ビジターセンター内で配布するほか、くじゅう地区管理運営協議会の各会員施設でも配布した。
- ・登山コースの紹介や季節ごとのお勧め周辺スポット紹介のほか、国立公園90周年にちなみ、くじゅうの歴史や天然記念物、草原と火山について特集し、企画展と連携した植物紹介を行った。

阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンターからお届けする

くじゅうだより

TAKE FREE!

阿蘇くじゅう国立公園90周年記念
くじゅうの「天然記念物」に追ろう!

2024 春号

くじゅうファンクラブ活動情報

くじゅうファンクラブは、「くじゅう地区管理運営協議会」の連絡先です。

皆さまのご実費で、こんな活動をしています。

くじゅう連山の道標交換などをすすめています

皆様からの寄付金や賛助会費を利用して、今年度も道標交換のための道標1基制作しました。道標には英語も併記して、海外からの登山者にもわかりやすい表示をしています。場所は御地蔵分岐(難勝小中、中道、天狗ヶ峯、久住分岐(動物池))、久住分岐(静水時近辺)です。この場所は人気な登山コースですが、道標が壊れたり見えなくなったりと大変な状態でした。道標を設置することで、避難小隊までのルートを示すことができました。設置はくじゅうファンクラブ会員のくじゅうネイチャーガイドクラブさんにお任せしています。また、高尾山(静水時)から久住分岐(動物池)まで、赤坂峠(高尾山)と林道の合流点で道標が壊れていました。入山時と下山時にまちがえないように簡易的な地図を記載しています。こちらの道標設置は、九重の自然を守る会さんが実施しました!

チームタダ原 阿蘇草原学習会

2月23日、九重町の小学校4年生~中学生らなるチームタダ原で阿蘇草原学習会を行いました。大分県(中津)地域と熊本県阿蘇地域は、阿蘇草原や野焼きの文化など共通点が多い地域ですが、チームタダ原という点では異なる点もいくつかありました。阿蘇草原の歴史や野焼きの文化についてお話を聞きました。メンバーから見たくじゅうの自然が出て、くじゅうと阿蘇の共通点も出てきました。また、阿蘇草原の歴史や野焼きの文化についてお話を聞きました。メンバーから見たくじゅうの自然が出て、くじゅうと阿蘇の共通点も出てきました。また、阿蘇草原の歴史や野焼きの文化についてお話を聞きました。メンバーから見たくじゅうの自然が出て、くじゅうと阿蘇の共通点も出てきました。

久住高原・沢水の野焼き

阿蘇(くじゅう)に広がる草原は、毎年春に行われている「野焼き」によって守られている自然環境です。牛や馬の糞や草やぶき残りの材料として、昔から地元の利用と人々の暮らしとでも深く結びついています。今現在も地元住民やボランティアの方々など、多くの皆様のおかげで美しい風景が守られています。今年久住高原の久住分岐の野焼きが3月2日に行われました。広大な草原があとという間に真っ黒な大地へと変わっていきます。事故もなく、無事に野焼きを終えることができました。くじゅうファンクラブでは、資料の貸出・ボランティアの飲食の提供・各種作業への職員の出張を通じて、くじゅう野焼きを続ける人々を応援しています。

「くじゅうの魅力を伝える」ワークショップ

1月25日~29日、くじゅうファンクラブの活動促進事業として、九重ふるさと自然学校によるワークショップが久住高原ホテルにて開催されました。これは、「くじゅうの魅力を伝える」をテーマに、地域の観光関連事業者・団体に向けて、くじゅうの自然を再発見し、お客様にくじゅうをより深く紹介するためのノウハウなどを学んでもらうプログラムとなっています。第1回目は各自の魅力を語り合いました。参加者が持っているくじゅうの魅力について共有し、第2回目は各チームを深掘りし、自らのコピーライターとしての役割を学びました。野生動物や植物といった身近な自然の存在や、国立公園内にある事業者としての役割など、新たな気づきを得られたとお声をいただきました。ご協力いただいた皆さまありがとうございました!

阿蘇くじゅう国立公園・タダ原レクチャー

学校などの団体向けプログラム、国立公園の概要やタダ原周辺についてのレクチャーを15分~30分程度で行います。お気軽にご相談ください。

タダ原の自然観察会(参加費無料/事前申し込み不要の場合同様)
九重の自然を守る会ボランティアガイドによる人気イベント。毎週日曜・祝日10:00~12:00に開催しています(12~2月は除く)。参加希望の方は10時までに、直接ビジターセンターへお越しください。団体のお申し込みの場合は事前にご相談ください。

くじゅうの魅力を伝える」ワークショップ

くじゅうファンクラブでは、上記のような教育・普及啓発活動、自然環境調査活動、登山等整備活動を実施しています。活動に賛同していただける賛助会員(個人10,000円/年 団体100,000円/年)や寄付金を募集しています。賛助会費の方は、会費証の発行のほか、毎月のプレゼント、お便り送付などの特典をご用意しています。令和6年度より、紙資源の削減やさらなる会員様への利便性を図るため、新たにクレジットカード決済会社としてクラウド株式会社とのシステムを導入します。それにより、くじゅうの自然環境やくじゅうファンクラブの活動情報などもクラウドを用いて発信させていただきます。詳しくはくじゅうファンクラブのホームページまたは右のQRコードからご確認ください。

くじゅうだより2024春号

発行元: くじゅうファンクラブ
(くじゅう地区管理運営協議会)

〒879-4011
大分県別府市九重町大字野原255-33
長者原ビジターセンター

TEL & FAX 0973-79-2154

※印刷費や送料は別途必要
※くじゅうファンクラブ
ホームページ
http://kujukyuclub.com/

※LINEで最新情報
を配信しています
※Facebook
・Instagram
でも配信
しています!

リレー式 職員からのひとこと

今年は暖冬の影響からマンサクの花が例年より遅くはじめて咲き始めました。高尾山の少し離れた高尾山(高尾山)でマンサクの花を色とりどり見たいです。タダ原ではマンサクやウツクサワカなどの花が咲き始め、早くも春の足音が響いています。そんな春の足音が聞こえてくるように、美しい風景が広がるように、そして人間関係が花や草の香りの季節がやってきます! 早く見たい1年がとって楽しみます!(又吉)

長者原ビジターセンターへは

大分自動車道 由布院ICから
由布院ICから40分/九重ICから30分

大船山のミヤマキリシマ群落

国指定 天然記念物
指定された年: 昭和36年
指定地面積: 3,432,800㎡

くじゅう連山を代表する植物「ミヤマキリシマ」。九州の主山に山地に生育しています。花期の5月~6月には、全国から多くの方がミヤマキリシマを求めてくじゅう連山を訪れます。中でも大船山のミヤマキリシマは、群落の広大さや美しさが学術上貴重であることから、国の天然記念物に指定されました。また、大分県レッドデータブックでは準絶滅危惧種 (NT) にも指定されています。



↑北大船山から大船山を望む



火山とともに生きるミヤマキリシマ

ミヤマキリシマが生育している環境を見ると、風が強く吹き付けるところ、ザレ場や火口付近などの植物が育つには厳しい自然環境下であることが分かります。火山特有のガスや高山の寒気候などといった環境の中で育ちながらも、毎年美しい花を咲かせます。火山が生んだ素晴らしい環境に根付き、力強く咲くミヤマキリシマ。これからも多くの人に愛されるものであってほしいですね。

阿蘇くじゅう国立公園90周年記念 くじゅうの『天然記念物』に追ろう!

Q. "天然記念物" ってなんだろう?

A. 天然記念物とは、学術上とくに貴重で保存の価値がある、動物、植物、地質・鉱物とそれらに富む天然保護区域のことです。国の文化財保護法によって指定された、文化財の1つでもあります。



九重山のコケモモ群落

国指定 天然記念物
指定された年: 昭和37年
指定地面積: 6,516,000㎡

ミヤマキリシマと同じ時期、足元に咲く小さな可愛らしい花コケモモ。日本の分布は広く、北海道~九州までの高山帯~高山帯の林縁や草地・岩場に生えます。コケモモはくじゅう連山が九州地方で唯一の分布地であり、日本における分布の南限地として、国の天然記念物に指定されました。また、大分県レッドデータブックでは準絶滅危惧種 (NT) にも指定されています。



↑雨の光を浴びて可憐に咲き誇るコケモモ

~北の国からやってきた!! コケモモの旅~

コケモモの分布域は、日本以外にヨーロッパ・ユーラシア大陸北部や北アメリカの森林など、北極圏に近い場所まで広く分布しています。ではなぜ遠く離れた大陸から、日本にコケモモが渡ってきたのでしょうか? それは約1万5千年以上前、日本と大陸とが陸続きだった寒い時代に、北の地域から植物が陸を渡って南下してきたからです。その後気候の温暖化に伴い、寒い地域からやってきた植物たちは涼しい場所を求め、高い山へ移動したと考えられています。コケモモは寒い北の国からやってきた植物の1つなのです。



くじゅうにツツジが大集合!

「コケモモ」と「ミヤマキリシマ」この2種の共通点は『ツツジ科の植物』だということ。くじゅうには、他にもツツジ科の仲間たちがたくさん生育しています。その数なんと約20種類! さっそく、くじゅうで見ることが出来るツツジの仲間を紹介しましょう!

①アセビ

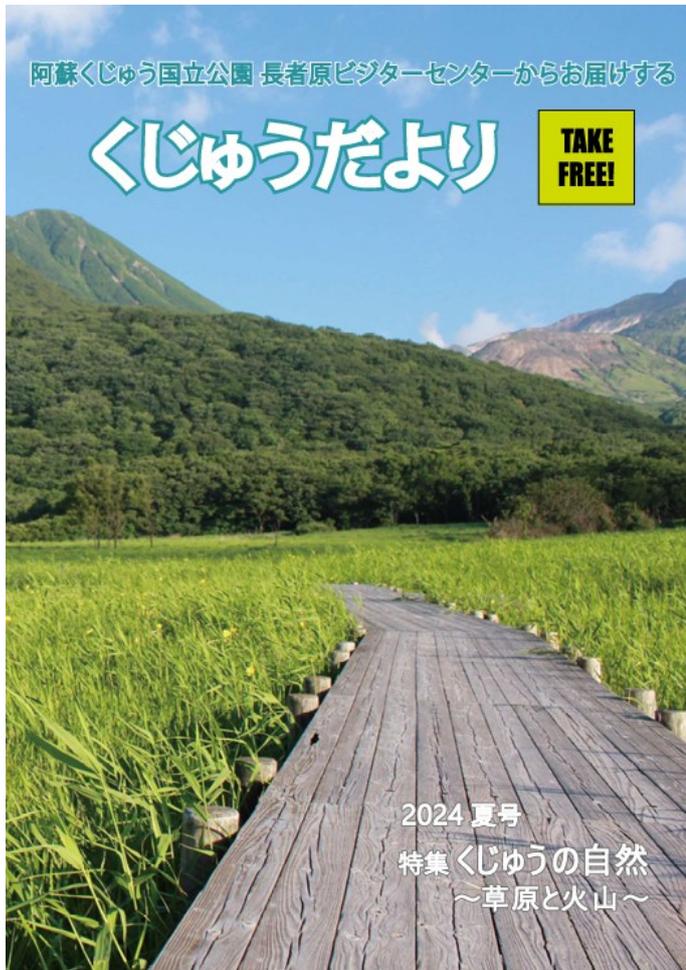
くじゅう連山の常緑樹代表種アセビ。あちこちにアセビのトンネルができるほど、多く自生しています。4月~5月に白い壺型の花をすずすずと咲かせます。アセビは漢字で「馬酔木」と書きます。毒を持つ植物の1つです。

②ドウダンツツジ

紅葉時、くじゅう連山を赤く染める木の多くがドウダンツツジの仲間です。くじゅうにはベニドウダン・シロドウダン・ツクシドウダンの3種類が自生しています。5月~6月に小さな花を自下向きに咲かせます。

③ギンリョウソウ

君もツツジ科なの?! と思わずにはいられません。その見た目から、別名ユウレイタケとも呼ばれます。葉緑素を持たない、菌根従属植物です。森の中の落ち葉の上や、タダ原の森の散策路でも見ることができます。花期は5月~6月です。



阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンターからお届けする

くじゅうだより

TAKE FREE!

2024 夏号
特集 くじゅうの自然
～草原と火山～

くじゅうファンクラブ活動情報

皆さまのご支援で、自然環境を守り、自然環境を保全・改善、登山道や自然環境を保全・改善

オオハングワウの繁殖活動がすすんでいます！

5月17日、鳥田原野鳥研究会(大分県、九重町)一般社団法人オオハングワウ研究会の主催で、やまなみハイウェイのオオハングワウの繁殖活動が行われました。この4者は2021年に大分県でのオオハングワウの繁殖活動が開始されました。今年も昨年引き続き鳥田原野鳥研究会と協定を締結しています。今年も昨年引き続き鳥田原野鳥研究会の美しい草原環境と豊かな生態系を守ることを目的に、活動が行われました。オオハングワウは北米原産のキク科の植物で、国の特定外来生物に指定されています。

有明ななんと20名の参加があり、1時間ほどで数株のオオハングワウは約140株、600株にもなりました！くじゅうファンクラブでは、外未確認種活動の道具の貸出や職員の手伝いを通じて協力させていただきます。

阿蘇くじゅう国立公園-タデ原レクチャー(動物観察、観察) 団体向け > 学校などの団体向けプログラム、国立公園の概要やタデ原湿原についてなどのレクチャーを15分～30分程度で行います。お気軽にご相談ください。

くじゅうだより2024夏号 発行元: くじゅうファンクラブ (くじゅう地区管理協議会) 大分県阿蘇郡九重町25-33 長者原ビジターセンター TEL & FAX 0973-79-2154

牧ノ戸峠にて登山レクチャーを開催しました

6月1日朝7時から牧ノ戸峠にて登山レクチャーを開催しました。このレクチャーは登山道の掘削、登山計画の提出、登山マナーの啓蒙を行う活動で、毎年登山者の多いヤマキリシマと紅葉シロシロの2種を保護しています。今回は九重町、大分県、大分県、九重の自然を守る会、くじゅうネイチャーガイドクラブなど団体職員13名でレクチャーを行いました。

多くの登山者がアナタスに耳を傾け、登山道を掘削して下さいました。登山道は方角、山登り発生の際に救助、貴重品の失窃に備えて登山ルートや下山ルートなど必要な情報を記入し提出するものです。近年、過剰な登山客の増加傾向にあるため、登山の自然は十分な計画を立て、必ず登山道掘削に協力してください。

阿蘇くじゅう国立公園-タデ原レクチャー(動物観察、観察) 団体向け > 学校などの団体向けプログラム、国立公園の概要やタデ原湿原についてなどのレクチャーを15分～30分程度で行います。お気軽にご相談ください。

くじゅうファンクラブでは、上記のような教育・普及活動、自然環境・調査活動、登山道整備活動を実施しています。活動に賛同していただける賛助会員(個人1口3,000円/年、団体1口10,000円/年)や寄付を募集しています。賛助会員のみなさま、会員の発行は、色紙のプレゼント、お便り送付などの特典をご用意しています。

草原

ヒメコウリ
小さなオレンジ色の花で、日本が大陸と陸続きであった時代に分布を広げたとされる。

ヒメコウリ
地中では蕾から綻花として開き、花は地上に開いてきた阿蘇くじゅう国立公園の草原を代表する花。

セツウカ
夏のタデ原湿原で繁殖、ススキなどの葉の上で白い花を咲かせる。

タデ原湿原
くじゅう連山の南北には、火山灰などの火山噴出物によって形成された火山性草原が広がっています。

これらの草原は起伏に高くなり、豊富な湧き水や流水により多量の湿原が発達し、サクラソウ、ヒメコウリ、サワギキョウなど希少な植物が多く生育する、学術的に貴重な生態環境となつています。

国内最大規模の中間湿原であるタデ原湿原と坊ガツル湿原は、2009年に国際的に保全すべき重要な湿地としてラムサール条約に登録されました。

湿原を守る野焼き
なぜタデ原湿原と坊ガツル湿原は森になることなく、草原景観が維持されているのでしょうか？その理由は「野焼き」にあります。春に枯れた草木に火をつけ、アワツギなど低木の侵入を抑え森林化を防ぎ、湿原における草原景観と動植物の生育環境が守られています。

くじゅうの自然 火山と草原

今回は、くじゅうを象徴する火山と草原、それぞれの特徴的な自然を紹介します！

阿蘇くじゅう国立公園は、1930年に日本国に指定され、2期となる国立公園に指定されました。阿蘇くじゅう国立公園の特徴は、巨大な活火山、カルデラ地形、今なお活発な山岳活動を続ける九重火山群、そして、由布岳や霧ヶ峰などの「火山帯」や「草原景観」などがあげられます。

くじゅう連山の南北には、火山灰などの火山噴出物によって形成された火山性草原が広がっています。

阿蘇くじゅう国立公園は、1930年に日本国に指定され、2期となる国立公園に指定されました。阿蘇くじゅう国立公園の特徴は、巨大な活火山、カルデラ地形、今なお活発な山岳活動を続ける九重火山群、そして、由布岳や霧ヶ峰などの「火山帯」や「草原景観」などがあげられます。

自然のめぐみ

火山のめぐみ

温泉
くじゅう火山群の地下にあるマグマを熱源に、九重町には泉質や効能の異なる個性豊かな温泉が湧き出しています。(2002年調査)

硫黄
硫黄山の噴気孔からは硫黄ガス(硫黄)が噴出し、明治時代には硫黄採掘が行われていました。

地熱発電
九重町には国内最大規模の八丁原地熱発電所があります。マグマの熱による高温の蒸気でタービンを回し発電する仕組みです。

草原のめぐみ

生物多様性
タデ原草原一帯は、多様な地質や地形を反映した生態系が成立し、動植物790種の生息が確認されています。(2002年調査)

暮らし
草原の草は「藁」として、田畑を肥やす堆肥・牛馬の餌・薪材などの資材として、昔の人々の生活を支えてきました。

景観
飯田高原、坊ガツル湿原は「未来に残したい草原の景観100選」に選ばれ、その景観を求めて多くの人が訪れます。

火山

ミヤマキリシマ
火山帯や岩場に生息する半常緑低木で、くじゅうの平湯岳や大船山などに分布しています。

ヨケモモ
「九重山のヨケモモ群衆」は九州唯一の分布地であり、日本における分布の南限地。

ツクシケンツツシ
九州の温泉地の温泉噴気孔付近に生息するカタクリの仲間。

火山帯特有の植生
くじゅう連山と相模・横山系は、緯度や標高はよく似ていますが、植生は対照的です。相模・横山系は非火山帯で山頂部はブナ林が優占しています。一方、火山帯のくじゅう連山は厳しい環境に強いミヤマキリシマなど低木の景観が優占し、まるで高山帯のような景観が広がります。

2. 環境教育活動

(1) チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～

- ・平成 27 年度にくじゅう地域で開催された KODOMO ラムサールをきっかけに、地元の小中学生で結成された自然保護活動グループ。令和 6 年度のメンバーは小学生 6 名、中学生 6 名の合計 12 名であった（今年度 4 名加入）。
- ・子どもが主体となった活動グループを目標とし、子どもたち自身で活動を計画・実行し、振り返りをおこなっている。その活動のサポートを当協議会がおこなった。
- ・今年度は令和 2 年度より継続している草運びを、近隣畜産農家だけでなく観光馬牧場にも運び、地域との連携を図った。

令和 6 年度 「チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～」活動一覧

開催日	概要	参加者（人） ※スタッフ含む
6 月 22 日	新メンバーにタデ原湿原を紹介しよう	16
8 月 8・9 日	夏のよくばりキャンプ	21
9 月 29 日	草こづみづくり	17
11 月 15 日	飯田高原文化祭	13
12 月 14 日	草運び	15
2 月 23 日	北九州博物館	20
3 月 9 日	タデ原湿原野焼き見学	14



夏のよくばりキャンプ



草こづみ



草はこび



野焼き活動

(2) 総合学習支援活動

協議会の会員である九重町・竹田市・由布市内の小中学校からの、総合学習の支援をおこなっている。九重町立飯田小学校では、総合学習で各学年ともタデ原湿原について学んでおり、今年度も講師の派遣やガイドの支援などを実施した。

九重町立飯田小学校 6年生

- ・ 7月13日（11名）、20日（9名）
- ・ 6月17日、7月1日（事前授業）
- ・ タデ原湿原の成り立ちや湿原の保護、希少な動植物について学び、自分なりにまとめ、来場者に伝える「キッズガイド」を実施するための学習支援を計5日間行った。
- ・ 大分県立先哲資料館の企画展「地域チューバー」動画作成支援を行った。



九重町立飯田小学校 3年生

- ・ 6月26日（10名）
- ・ 9月5日（10名）
- ・ 2月21日（11名）
- ・ 総合学習の中で飯田高原の自慢を見つけるため、四季を通じてタデ原を訪れ季節の変化やタデ原の魅力についてビジターセンター職員、ボランティアが解説を行い、館内やタデ原湿原でタブレットを使用し、まとめ学習を行った。



九重町立ここのえ緑陽中学校 3年生

- ・ 10月24・25日（1名）
- ・ 職場体験学習を受け入れた。ビジターセンターで受付や自然情報収集、ゴミ拾い、ハンズオン展示の作成を行った。また、タデ原見学に来たここのえ緑陽中学校1年生76名に対し、見ごろの花についてレクチャーを行った。



Ⅲ. 自然環境保全・調査活動

1. 自然環境保全活動

(1) 外来種等駆除活動

タデ原湿原とその周辺には特定外来生物であるオオハンゴンソウが生育しており、その他にも数種の外来植物が生育している。今年もくじゅう地区管理運営協議会の会員等と連携しながら、タデ原湿原と飯田高原周辺におけるオオハンゴンソウ駆除活動を支援した。



実施日	内容・場所	主催団体	支援内容
5月11日	オオハンゴンソウ駆除・やまなみ沿線	九重ふるさと自然学校	用具貸出
7月5日	オオハンゴンソウ駆除・やまなみ沿線	飯田小学校・九重の自然を守る会	用具貸出
7月27日	オオハンゴンソウ駆除・笹ヶ台入口	飯田地区まちづくり協議会	用具貸出
8月25日	オオハンゴンソウ駆除・やまなみ沿線	九重の自然を守る会	職員参加・用具貸出
9月1日	オオハンゴンソウ駆除・やまなみ沿線	九重の自然を守る会	用具貸出
9月8日	オオハンゴンソウ駆除・やまなみ沿線	九重の自然を守る会	用具貸出
11月23日	オオハンゴンソウ駆除・やまなみ沿線	伊藤園・九重の自然を守る会	職員参加・用具貸出
11月24日	オオハンゴンソウ駆除・やまなみ沿線	九重の自然を守る会	用具貸出
11月30日	オオハンゴンソウ駆除・笹ヶ台入口	飯田地区まちづくり協議会	用具貸出
12月1日	オオハンゴンソウ駆除・やまなみ沿線	九重の自然を守る会	用具貸出
12月8日	オオハンゴンソウ駆除・やまなみ沿線	九重の自然を守る会	用具貸出
12月15日	オオハンゴンソウ駆除・やまなみ沿線	九重の自然を守る会	用具貸出
12月22日	オオハンゴンソウ駆除・やまなみ沿線	九重の自然を守る会	職員参加・用具貸出

(2) 美化清掃活動

7月31日に開催された自然公園クリーン作戦（九重町・環境省主催）に職員が参加するとともに、道具の貸し出しや軍手・お茶の提供をおこない、環境美化に協力した。

10月5日に実施されたやまなみハイウェイ美化清掃活動（つながるひろがるやまなみハイウェイ実行委員会主催、道守九州会議ほか協力）に職員が参加し、瀬の本から長者原までの美化活動を行った。

11月6日に大分県主催「山のトイレをキレイに使い隊運動」に職員が参加し、久住分かれに設置されている山岳トイレの美化清掃活動への協力を呼び掛けた。

これらの行事やイベントのほか、登山道巡視や自然情報収集活動の際に日常的にゴミを拾うなど、くじゅう連山と周辺の美化清掃活動に取り組んだ。



(3) 野焼き活動

くじゅう地区では、草原景観の維持と希少種の保護などを目的に各地で野焼きが実施されている。今年度も野焼きを行う各団体と連携しながら、防火帯の作成、野焼きの作業、用具の貸出などを通じて野焼き活動を支援した。消火用具（ジェットシューター）を地域の野焼きや防火帯焼きに合計7回貸し出したほか、次項の表に示した活動については職員も参加して消火活動などの作業にあたるとともに、飲料と軽食の提供もおこなった。

実施日	内容	場所	主催団体	支援内容
9月3日	防火帯切り	タデ原外周	飯田高原公私隊	職員参加
9月8日	防火帯切り	やまなみ沿線	九重ふるさと自然学校	職員参加
10月9日	防火帯焼き	タデ原外周	飯田高原公私隊	職員参加
11月12日	防火帯切り	タデ原西	環境省くじゅう管理官事務所	職員参加
3月1日	野焼き	沢水キャンプ場周辺	竹田市	職員参加・飲食提供
3月9日	野焼き	タデ原・大將軍	飯田高原野焼き実行委員会	職員参加・飲食提供
3月30日	野焼き	泉水山・やまなみ沿線	飯田高原野焼き実行委員会	職員参加・飲食提供



2. 調査活動

(1) モニタリングサイト 1000 里地調査

環境省のモニタリングサイト 1000 里地調査の調査地として登録されているタデ原湿原（九重町）と沢水キャンプ場周辺（竹田市久住町）において、植物のフェノロジー調査（3月～11月に毎月1回実施）にそれぞれ職員が参加するなどして協力した。



(2) 長者原地区植物保全協議会

大分県のやまなみハイウェイ歩道拡幅工事に伴う長者原地区植物保全協議会に、2017年度より委員として職員が参加している。今年度も、やまなみハイウェイ沿線の植物調査及び工事方法について検討する会議に次の通り出席し、調査等を行った。

5月24日 第26回協議会・現場視察

9月5日 第27回協議会・現場視察

2月26日 第28回協議会

(3) 希少種の調査・保全

環境省が開催する生態系維持回復事業検討会議に出席し、タデ原湿原における希少種保全の体制づくりに協力した。

生態系維持回復事業の取り組みとして、当協議会正会員と協力し、タデ原湿原に2か所の植生保護柵を設置した。また、信州大学緑地生態学研究室に委託し、柵の効果検証と柵内外の植生調査を実施した。



IV. 登山道等管理活動

1. 登山道保全活動

(1) 登山道保全活動（主催事業）

くじゅう地区管理運営協議会会員と協力し、玖珠美山高校との登山道保全整備活動を行った。

日程：11月13日

内容：玖珠美山高校地域産業科3年生（24名）と牧ノ戸～杓掛山間（大分県執行路線）にて、老朽化したロープ柵の撤去と設置（約700m）を実施し、当協議会正会員及び関係者が作業指導を行った。

参加団体：環境省くじゅう管理官事務所 2、大分西部森林管理署 3、大分県 2、大分県警 3、

九重の自然を守る会 2、くじゅうネイチャーガイドクラブ 2、協議会事務局 3 計 17名



(2) 登山道保全活動（正会員活動助成事業）

当協議会の正会員活動助成事業として、以下の登山道保全活動の助成を行った。

ア 岳麓寺～大船山 登山道整備

実施者：NPO 法人久住高原みちくさ案内人倶楽部

日時：9月29日

内容：登山道の草刈り、支障木の枝打ち、登山道補修

助成金額：110,000円



イ 黒岩山・泉水山草切り作業

実施者：NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ

日時：10月5、6、26日

内容：登山道の草刈り、支障木の枝打ち

助成金額：130,000円



ウ 指山登山道山頂付近の草刈り・登山道補修作業

実施者：NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ

日時：11月16日

内容：指山登山道の山頂付近の草刈り、支障木の枝打ち、登山道補修

助成金額：130,000円



エ 坊原登山道草刈り・登山道補修作業

実施者：NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ

日時：10月26日

内容：登山道の草刈り、支障木の枝打ち、登山道補修

助成金額：130,000円



(3) 道標交換

- ・道迷いの問い合わせが多い箇所等で1基の道標交換を行った。
本年度設置した看板及び道標は次の通り。交換の際にはローマ字を併記し、外国人登山者に配慮したものを製作した。設置は正会員に委託し実施した。

道標：坊原 <大分県執行路線>

(スガモリ越〈三侯山・法華院・久住山方面〉、

スガモリ越(車道)、長者原登山口)

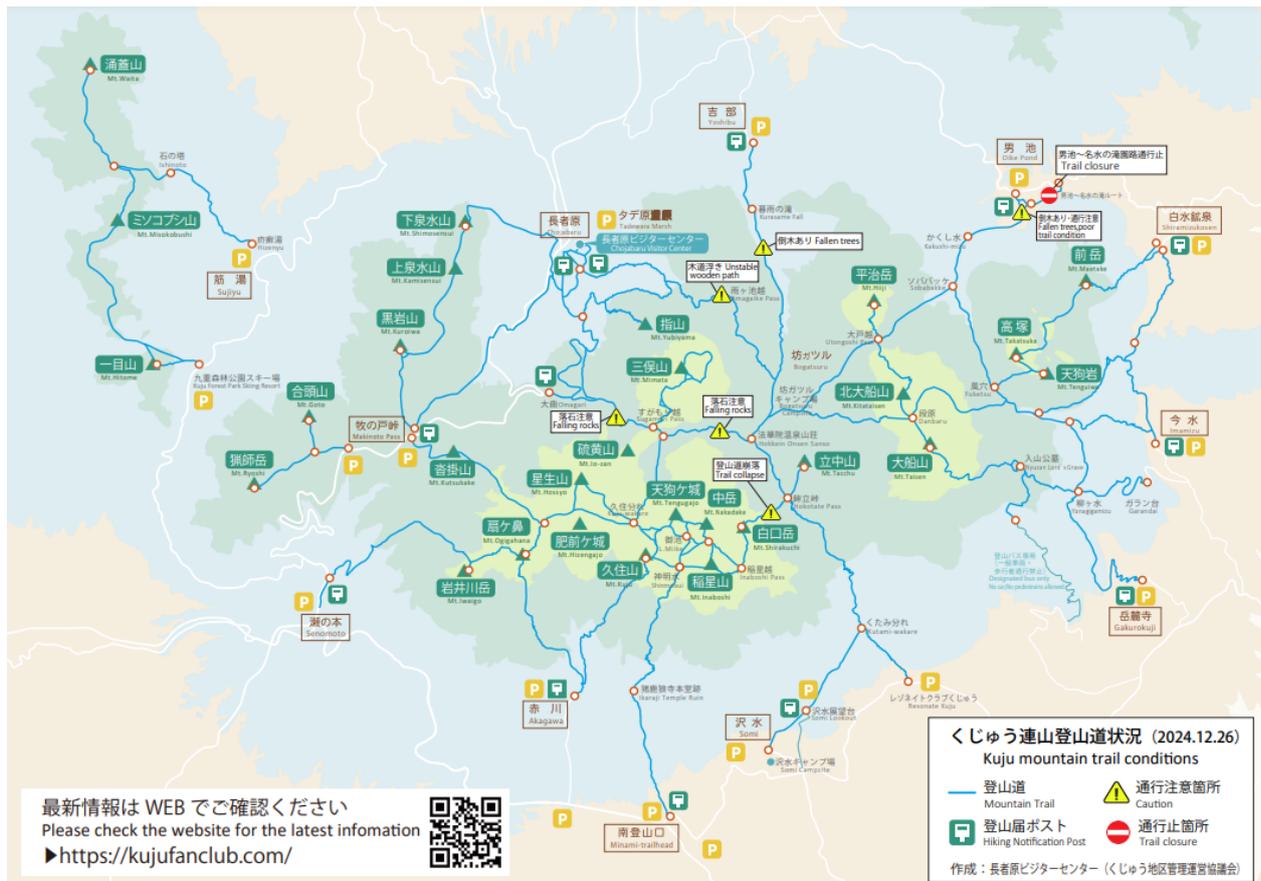
設置：九重の自然を守る会



坊原の道標

(4) 登山道等についての情報収集・情報提供

- ・環境省と大分県から管理路線の巡視業務を受託し、仕様書に基づいて巡視を実施した。
- ・タデ原木道を随時巡回し、異常箇所がないかどうか確認するとともに、ごみ拾いを行った。
- ・登山者から寄せられた登山道についての情報を集約し、環境省、林野庁、大分県等の関係機関に提供した。
- ・登山道の状況については、一般の登山者などから主に電話で多くの問い合わせがあり、これらについても丁寧な対応を心掛けた。また利用者へ向けて随時ホームページや SNS で情報発信を行った。



長者原ビジターセンターホームページでの登山道情報発信の例

2. 長者原周辺の美化清掃活動

(1) 公衆トイレ清掃・園地清掃業務

- ・環境省から長者原地区にある2つの公衆トイレ及び長者原園地の清掃業務を受託し、仕様書に基づき清掃を行った。

ア 公衆トイレ清掃

- ・ミヤマキリシマの時期・夏休み中・紅葉の時期などには1日に2回点検や清掃を行うなど対応を強化し、常に清潔なトイレが保たれるよう努めた。
- ・ドアノブ・便座・カラン等のアルコール消毒を行った。

イ 園地清掃等

- ・長者原園地・駐車場及びその周辺において、ゴミ拾い、ブロワーがけ等の清掃活動を随時実施した。
- ・長者原園地では落ち葉清掃を行った。
- ・積雪期には利用者の安全を確保するためビジターセンター前の除雪を行ったほか、駐車場の白線が見えなくなるため通路にコーンを設置して利用者の混乱を防いだ。
- ・タデ原周辺の自然歩道脇の草刈り、ビジターセンター周辺の防火線切りを実施した。



V. その他

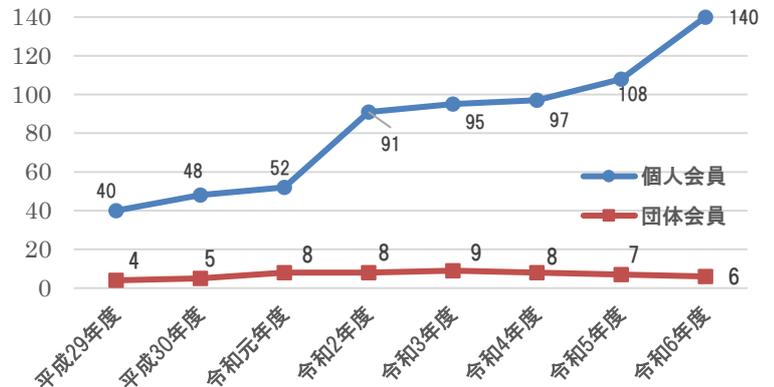
1. くじゅうファンクラブ賛助会員・寄付制度

(1) 賛助会員制度

- パンフレットの配布、関係団体の訪問などを通して、くじゅうファンクラブの活動に賛同する賛助会員を募った。令和2年度に、豪雨被害に対する支援として個人会員が大幅に増えた。その後は緩やかに増加が続いていたが、デジタル決済を導入した令和6年度は個人会員が140名と大幅に増加した。

- 賛助会員数 個人会員：140名
 団体会員：6団体

賛助会員数の推移



(2) 寄付制度

①募金箱の設置

- くじゅう地区管理運営協議会の会員および賛助会員などの関係施設のうち、賛同していただいた16施設および長者原ビジターセンター内に募金箱を設置し、協議会活動への支援を募った。昨年度に比べて募金額は増加し、合計20万以上の協力を得た。
- 募金箱への募金額 計 213,741円（令和5年度 204,963円）

②一般寄付

- パンフレットやホームページを通じて、くじゅう連山の環境保全のための寄付を募った。昨年度に比べ、寄付額は減少した。
- 内訳 個人寄付 7件 38,848円（令和5年度 6件 43,500円）
 団体寄付 1件 10,000円（令和5年度 2件 33,458円）
 └─九重・飯田高原観光協会
 計 48,848円（令和5年度 76,958円）

③環境保全のための協力金付ツアーおよび協力金付宿泊プラン販売等からの寄付

- 令和6年度も当協議会会員や国立公園満喫プロジェクトオフィシャルパートナー等による環境保全のための協力金付ツアーおよび協力金付宿泊プランの販売が行われ、その利益の一部からご寄付をいただいた。
- 協力金付ツアー・宿泊プラン・飲料水販売などからご寄付いただいた団体（順不同・敬称略）
九電産業株式会社
有限会社星生温泉（宿泊プラン：九重星生ホテル）
神戸大学附属中等教育校
中津市教育委員会
夜のタダ原さんば参加者
- 協力金からの寄付金 計 494,680円（令和5年度 503,850円）

2. 職員研修実績

(1) 自然観察指導員フォローアップ研修 in 唐津

開催日時：令和6年9月14～15日 参加者：竹菴

概要：自然観察指導員としてのインタープリテーション技術について学んだ。

(2) 第14回全国草原サミット・シンポジウム in おたり大会

開催日時：令和6年10月2～6日 参加者：柳井

概要：令和8年に九重町で開催される草原サミットの下見に行き、事務局体制やイベント構築方法について学んだ。

(3) インタープリテーション講習会（NACS-J 自然観察指導員講習）

開催日時：令和6年10月26～27日 参加者：又吉

概要：野外での自然観察会におけるインタープリテーション技術について学んだ。

(4) 阿蘇地域野焼きのためのラジコン草刈り機デモンストレーション体験会

開催日時：令和6年11月30日 参加者：竹菴

概要：野焼き活動の先進地研修として阿蘇地域の効率的な防火帯づくりについて学んだ。

(5) 遭難対策及び応急手当講習会

開催日時：令和6年12月2日 参加者：竹菴・柳井・又吉

概要：遭難した場合の対処法や応急手当の講習会を行った。

(6) 九重ふるさと自然学校主催 くじゅうの野鳥観察会

開催日時：令和7年1月26日 参加者：柳井

概要：くじゅうの冬鳥について野外で研修を受けた。

(7) 九重町主催 アライグマ防除講習会

開催日時：令和7年1月30日 参加者：竹菴

概要：アライグマ防除の免許を取得した。

(8) 野焼き支援ボランティア研修

開催日時：令和7年3月2日 参加者：竹菴

概要：飯田高原野焼き実行委員会が開催する野焼き支援ボランティア研修に参加し、野焼き参加時の注意点や心構えなどについて学んだ。

3. 新聞掲載記事

夜のタデ原もよかつたよ

九重 飯田高原で散歩イベント

【九重】標高千以上に位置する九重町・飯田高原に広がるタデ原温泉で11日、夜のタデ原さんぽがあった。日中とは雰囲気異なる夜の高原を楽しんでもらおうと、阿蘇くじゅう国立公園

長者原ビジターセンターが企画し、3回目。今回の対象は親子連れで、18人が参加。ランタンを手に夜の森へ入り、周囲に設けられた木道や森林の中を歩いた。ネーチャー

ガイドによる雑草や野生動物などの説明を聞きながら約1時間半、涼しい高原の散策を楽しんだ。福岡市から友人1人と6人で来たボーデ・スーさん(8)は「自然が好きで参加した。鳥の集まるの場所が楽しかった。シカが木

の下の方を食べると知らなかったのが勉強になった」と喜んでいた。

参加費の一部は環境保全協力金として、くじゅう地域の野焼き活動に充てる。31日には、天人のタデ原さんぽと題したイベントも予定しており、同センターは「夜の温泉の素晴らしい景色を多くの人に体感してもらい、貴重な環境を守る取り組みへの理解を深めたい」と話した。

(宮家大輔)



ランタンの明かりを頼りに夜の高原散策を楽しむ親子連れ=九重町飯田高原のタデ原温泉

九州学生ワングル連盟が寄付

くじゅう連山整備に

【九重・竹田・由布】九州内の3大学でつくり昨年解散した九州学生ワングル連盟が「世界話にならなくじゅう連山の登山道整備や維持管理に役立ててほしい」と、くじゅう地区管理運営協議会(会長・日野康志九重町長)に880万円寄付を寄せた。

同協議会は要望に沿って活用に向け、新たに九州学生ワングルフォーカス連盟(会)を創設した。

同連盟は久々、長崎、福岡の3大学で構成。最盛期は2017年ごろ、もももの場合に備えるため避難対策基金を立ち上げ、学生が山に登る際、1人500円ずつ集めて積み立ててきた。昨年6月の解散に伴い協議した結果、同協議会に全額を寄付する意向とした。

11月下旬、事務局の福岡大の学生やOBの8人が九重町役場を訪れ、清水OB会長(83)が「善いことに基金に手を付けることはなかった。実際に整備作業がある時は声をかけてもらって学生OBみんなの手伝いに来たい」と述べた。日野町長は「本当にありがたい。山の安全を願うてきた元々の趣旨も酌み整備に活かして」と感謝した。

同協議会は環境負、同町、竹田市、由布市、自然保護団体を43団体で構成。長者原ビジターセンターの管理運営に当たっている。昨年度受けた寄付総額は約77万円。町商工観光・自然環境課は「10年分以上の寄付を頂く。思いを受け止め、くじゅう連山のために大切にしていきたい」と話した。

(宮家大輔)

↑ 大分合同新聞
令和6年12月10日(火)

← 大分合同新聞
令和6年8月21日(水)

阿蘇くじゅう「保護活動推進」

国立公園指定90周年

九重など関係団体集う

【九重・玖珠・竹田・由布・別府】大分県と熊本県にまたがる阿蘇くじゅう国立公園の指定90周年を記念し、11月27日、熊本県阿蘇市内のホテルに関係団体が集まり講演などがあった。

国や阿蘇の自治体職員、環境保護団体のメンバーら約100人が参加。阿蘇草原再生協議会の高橋佳孝会長が「阿蘇草原の維持・再生の取り組みと展望」と題して講演。九重町商工観光・自然環境課の吉光泰三課長が事例発表をした。

吉光課長は長者原ビジターセンター(町内田野)を運営するくじゅう地区管理運営協議会が主催する「夜のタデ原ツアー」、子どもたちによるチータータデ原の活動を紹介。町が進める案内看板の多言語化や小松地獄園地(町内湯坪)の整備事業にも触れ、「指定100周年に向け、持続可能な自然保護活動を推進していく」と述べた。

同公園は1934年に阿蘇国立公園として指定を受け、86年に「阿蘇くじゅう」に名称変更された。総面積は約7万3千餘。県内5市町と熊本県の8市町村が含まれている。

2016年には「利用と保護の促進」をうたう環境省

の国立公園構想プロジェクトが始動。各自治体でつくる地域協議会、観光振興や景観保護に向けた取り組みを進めている。

(宮家大輔)

↑ 大分合同新聞
令和6年11月27日(水)

4. 地域の概要

阿蘇くじゅう国立公園は、九州のほぼ中央に位置し、周囲約 100km に及ぶ世界最大級の阿蘇のカルデラ地形と、その北東部に連なるくじゅう火山群、由布岳、鶴見岳からなる、火山地形と草原景観が特徴的な国立公園である。その中でも、くじゅう地域は「九州の屋根」とも呼ばれ、1,700 m 級の峰が連なり、初夏はミヤマキリシマの花、秋は紅葉で山々が彩られる。また、山間の坊ガツル湿原・タデ原湿原は、国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録されており、山麓の飯田高原・久住高原などの広大な高原と並び、湿地性・草原性の多様な草花や野鳥・昆虫など多くの動植物の貴重な生育場所となっている。

長者原ビジターセンターは、通称「やまなみハイウェイ」と呼ばれる、阿蘇と別府をつなぐ県道 11 号線沿いの大分県九重町長者原地区にあり、くじゅう地域の拠点施設として利用されている。センターの眼前にはタデ原湿原が広がり、設置された木道を歩くと、四季折々の自然を肌で感じることができる。



くじゅう連山（ミヤマキリシマ開花期）



タデ原湿原

【位置図】



阿蘇くじゅう国立公園

指定：1934年（昭和9年）

公園面積：73,017ha（くじゅう地域 18,649 ha）

5. 運営体制

事務局

九重町役場 商工観光・自然環境課内

事務局員

竹菴 明日香（事務局長）

種村 英大

柳井 理子

又吉 真鈴

九重町商工観光課自然環境グループ

大津 恭子

帆足 ちひろ

くじゅう地区管理運営協議会の構成

環境省、大分森林管理署、大分西部森林管理署、大分県、九重町、竹田市、由布市、九重・飯田高原観光協会、筋湯温泉観光協会、釜ノ口温泉観光協会、NPO 法人竹田市観光ツーリズム協会、やまなみ観光株式会社（レストハウスやまなみ）、有限会社法華院温泉（法華院温泉山荘・法華院温泉高原テラス）、九重森林公園株式会社（九重森林公園スキー場）、九重の自然を守る会、有限会社星生温泉（九重星生ホテル）、一般財団法人セブンーイレブン記念財団（九重ふるさと自然学校）、NPO 法人久住高原みちくさ案内人倶楽部、NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ、株式会社牧の戸（牧ノ戸峠レストハウス）、寒の地獄株式会社（寒の地獄旅館）、株式会社まきのとコーポレーション（九重観光ホテル）、飯田高原観光株式会社（長者原ヘルスセンター）、有限会社みやま商店（モンベルルーム くじゅう長者原店）、株式会社エルランチョ・グランデ、大分県農業協同組合（飯田高原ドライブイン）、有限会社くじゅう倶楽部、九重ヒュッテ、大分県立九重青少年の家、飯田高原デザイン会議、株式会社橋本建設、株式会社ア・マ・ファソン（オーベルジュ・ア・マ・ファソン）、株式会社星野リゾート（界 阿蘇）、有限会社吉武建設（くじゅうやまなみキャンプ村）、株式会社レゾネイト（レゾネイトクラブくじゅう）、公益財団法人九電みらい財団、一般財団法人 TAO 文化振興財団（TAO の丘）、くじゅう地区パークボランティアの会、有限会社スパーグリネス（スパ・グリネス）、このえまち総合サービス株式会社、ラフクリエイション株式会社（天空の大地久住高原ホテル）、温泉コスメティック株式会社（赤川温泉赤川荘）、くじゅうビバレッジ株式会社（敬称略・順不同）

くじゅう地区管理運営協議会賛助会員

九電みらいエナジー株式会社（八丁原発電所）、九州林産株式会社林業部、大分県高等学校体育連盟登山専門部、福岡県高等学校体育連盟野外活動専門部、福岡県中学校体育連盟野外活動部、九重町観光協会（個人会員を除く、敬称略・順不同）



くじゅう地区管理運営協議会(くじゅうファンクラブ)

【事務局】九重町役場商工観光・自然環境課

【事務所】長者原ビジターセンター

【所在地】〒879-4911

大分県玖珠郡九重町大字田野 255-33

【電話】0973-79-2154

【ホームページ】<http://kujufanclub.com/>

長者原ビジターセンター

【住所・電話】上記に同じ

【開館時間】9:00～16:00 (5～10月は9:00～17:00)

【休館日】年末年始(12月29日～1月3日)のみ

【入館料】無料

発行 / 令和7年3月31日